

アライプロバンス

東京・葛西でマルチテナント型施設の上棟式

「ハイパースペースロジスティクス」の拠点に



「アライプロバンス葛西A棟」の完成イメージ

東京メトロ東西線「葛西駅」から約1・8 km、JR京葉線「葛西臨海公園駅」から約3・1 kmに位置する。

大型商業施設に隣接しており、周囲にも飲食店、コンビニが数多く立地。近傍にある地域住民の憩いの地にもなっている「なぎさ公園」や旧江戸川の河川敷が緑と潤いを与えてくれる就業空間となる。

倉庫スペースは、床耐荷重が1・5 t/m²で、1階は2・5 tカウンターフォーク、4・0 tカウンターフォークに対応。柱スパンは10・8 m×10・5 m、梁下有効は5・5 m(4階の一部は5・4 m)を確保している。

プラットホームは1・0 mで、ドックレベラーは1〜4階に各5台ずつ、計20台を設置。トラックパースは128台(4 t192台、10 t128台)確保し、40 ftコンテナ車にも対応する。

4〜5階の縦搬送には貨物用エレベーター4台(3・5 t)、垂直搬送機2台(1・5 t)を設置。トラック待機場は10台(10 t車)、敷地内の駐車場



「吊り上げの儀」の様子

アライプロバンス(本社・東京都墨田区、新井太郎社長)は12月19日、マルチテナント型物流施設「アライプロバンス葛西A棟」(東京都江戸川区)の上棟式を行った。延床面積約8万7122 m²の鉄骨造地上5階建て。都市部の立地を活かし、「小区画割」と「多用途」対応を特徴とした「ハイパースペースロジスティクス」の拠点として2024年8月の竣工を予定している。上棟式では、「鉄打ちの儀」の後、鉄骨梁への関係者の記名がなされ、クレーンで最後の鉄骨梁を吊り上げる「吊り上げの儀」が行われた。

113台(普通車106台、軽自動車5台、バス2台)、駐輪場149台(自転車133台、バイク16台)分を用意する。
上棟式の後、新井嘉喜雄会長、新井社長、青柳慶賢取締役事業本部長兼営業部長が、報道陣の囲み取材に応じた。
新井社長は、施設の特徴について「『ハイパースペースロジスティクス』をコンセプトに掲げ、とくに2階、3階は小区画割、多用途に対応し、倉庫以外の用途にも使っていただけるようにした」と説明。
「東京23区内の好立地であり、ラストワンマイルの拠点としての活用が期待できる。単に貨物を保管することにとどまらず、都心ならではの、今までにないような使い方についてご相談いただきながら、対応していきたい」と意欲をみせた。
さらに、「『2024年問題』を控えているが、都心に拠点を持つことが解決策につながる」とし、具体的には、東京港に揚がった海上コンテナを内陸部の倉庫でデバンニングし、再び需要地である都心に商品を配送するロスを回避できると指摘した。
「物流コストの中で賃料が占